

# 長門湯本温泉エリア交通計画 【骨子案】

長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議  
(交通担当：株式会社日本海コンサルタント)

# なぜ「エリア交通計画」が必要なのか？

## 長門湯本温泉エリア交通計画

「歩ける温泉街の形成」＝人中心の道路交通環境への転換による地域の魅力アップ

### ハード整備による環境変化

- 恩湯の建て替えと周辺の広場化
- 駐車場～音信川をつなぐ動線整備
- 道路や河川の利活用 …など



### 道路交通面の課題

- 狭小な歩行空間、歩く魅力の不足
- 通過するだけのクルマの存在
- 慢性的な路上駐車が発生 …など



## 長門湯本温泉観光まちづくり計画

音信川の景観を活かし、安心して散策できる温泉街の形成を目指すため、地域住民や商店等の道路利用とどのように調和できるかの検証を重ねながら課題解決することが必要。



# 「歩ける温泉街」とする意義

- 地域の方々やその子どもたち・孫たちが将来にわたって暮らすことができ、外からも移住してきてくれるエリアになるためには、ここで商売をして稼げることが重要。
- エリア全体として「歩行者専用あるいは優先」とすることで、そぞろ歩きができる魅力的な場所になり、歩きながら消費してもらえるエリアとなる＝移住や新規出店、持続可能な暮らしの基礎となる。





# 【事例】 あつみ温泉かじか通り（山形県鶴岡市）

- 入湯客数の激減（H2：35万人→H22：12.6万人）、旅館数の減少（ピーク時18件→9件）
- 「まちの魅力をつくってこなかったことが温泉街衰退の最大の原因」（東大 堀教授）との指摘を受け「歩いて楽しい温泉街」を将来像に設定し、河川や道路の整備を実施
- 歩ける温泉街への転換により、H22以降の入湯客数が増加（H28：19.8万人）

## 【多面的な効果】

- ①温泉街としてのマイナス要因の低減（空き店舗の活用による滞留拠点整備等）
- ②温泉街イメージの向上（女性グループや若年層の来街増による地域の活性化）
- ③温泉旅館による活用（宿泊客に温泉街散策を薦めるように変化）
- ④ビジネスチャンス（これまでになかった客層へのアプローチが可能）
- ⑤地域への影響（3種の神器：迎客・集客・挨拶の各装置による賑わい創出）





# 【事例】 あつみ温泉かじか通り（山形県鶴岡市）

▼人中心の道路交通環境に転換した「かじか通り」



▼店舗前の道路上に休憩施設を配置



▼擬木の防護柵を撤去してスッキリとした景観



▼一方通行・30km/h規制・駐車禁止による自動車交通制御





# 「エリア交通計画」の作成に向けた主な論点（5本柱）

## 【論点1】歩きたくなる魅力の創出

- 道路や河川の利活用、魅力的なコンテンツの誘致等により、歩きたくなるまちに変えていく必要がある。

➡ ①音信川沿いの道路のどこをどのように利活用するか？

## 【論点2】クルマ中心から歩行者（人）中心への道路空間再編

- 歩車分離ではなく「歩車共存」（シェアド・スペース）の考え方を基本に、適切な交通規制のもと、安心して歩ける道路空間に変えていく必要がある。

➡ ②クルマの通行を認めつつ、いかに人中心としていくか？

## 【論点3】慢性的な路上駐車対策（荷捌き含む）

- 音信川左岸道路では、地域住民や商業者、公衆浴場や旅館を利用する来街者等による路上駐車が目立ち、歩行環境と道路景観を阻害していることから、これまでの慣習を変えていく必要がある。

➡ ③どのように路上駐車を解消・防止するか？荷捌き対策は？

## 【論点4】駐車需要への対応・駐車場の管理運営

- 新設駐車場、旅館組合駐車場、大寧寺駐車場の3つの大規模駐車場をエリア全体の公共的駐車場と捉え、満空情報の管理やクルマでの来街者に対する適切な案内等を行う必要がある。

➡ ④誰がどのように管理運営していくか？システムやコストは？

## 【論点5】回遊を支援するモビリティ

- 長門湯本温泉を起点とする大寧寺・三ノ瀬・門前・長門市街・仙崎間の回遊を支援するため、新しく魅力あるモビリティの導入を検討する必要がある。

➡ ⑤どのようなモビリティの導入が考えられるのか？

主にこの3点について議論

段階的に検討

# 「歩ける温泉街」に向けた社会実験の様子 (2017.9.16-10.9)

▼プランターで歩車道を区分 (一方通行時)



▼整然と通行するクルマの車列 (一方通行時)



▼道幅の狭い区間ではすれ違いが困難 (対面通行時)



▼利活用区間では相互通行ですれ違い (対面通行時)





# 「歩ける温泉街」に向けた社会実験の様子 (2017.9.16-10.9)

▼道路空間の利活用により路上駐車がスツキリ

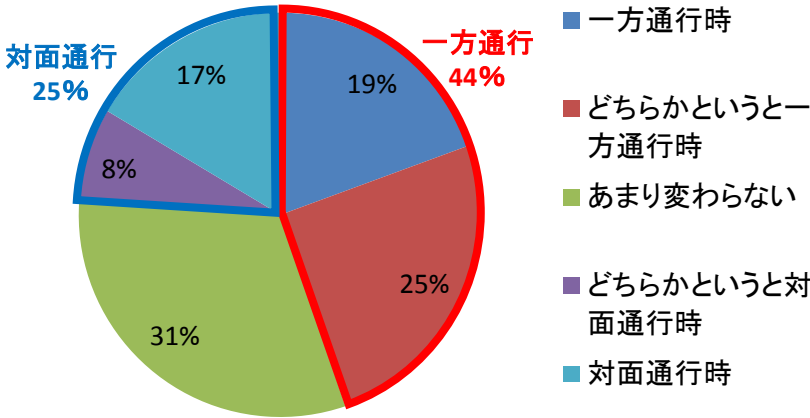




# 社会実験に対する評価（道路交通関連）

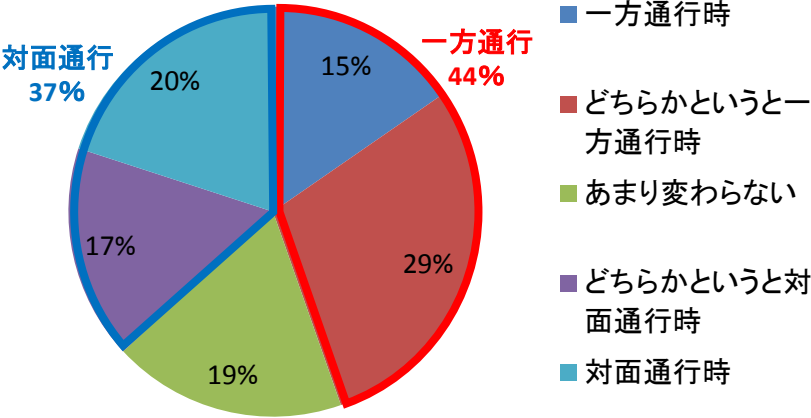
▼歩行者や車の通行を考えた場合、一方通行と対面通行のどちらの方が地域にとって良いと思いましたか？

### A. 歩行者の安全性や通行のしやすさ



道路空間を体験した人・見た人 N=67

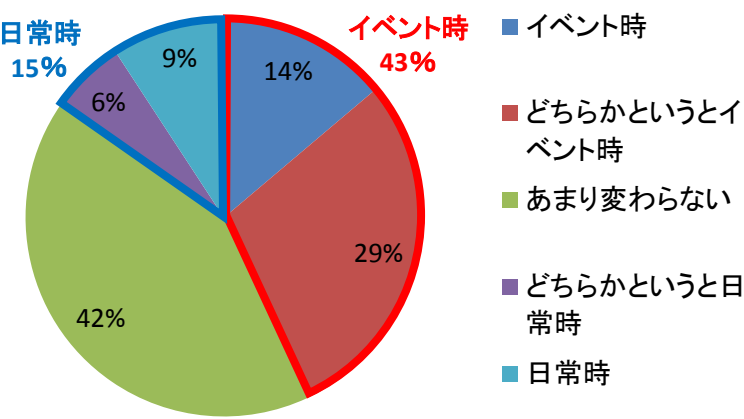
### B. 車の安全性や通行のしやすさ



道路空間を体験した人・見た人 N=65

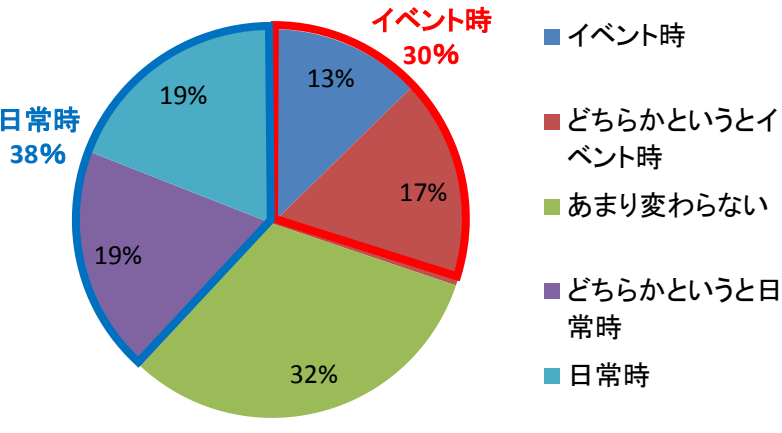
▼歩行者や車の通行を考えた場合、イベント時(9/16～18と10/7～9の6日間)と日常時(9/19～10/6の18日間)を比較して、どちらの方が地域にとって良いと思いましたか？

### A. 歩行者の視点



道路空間を体験した人・見た人 N=65

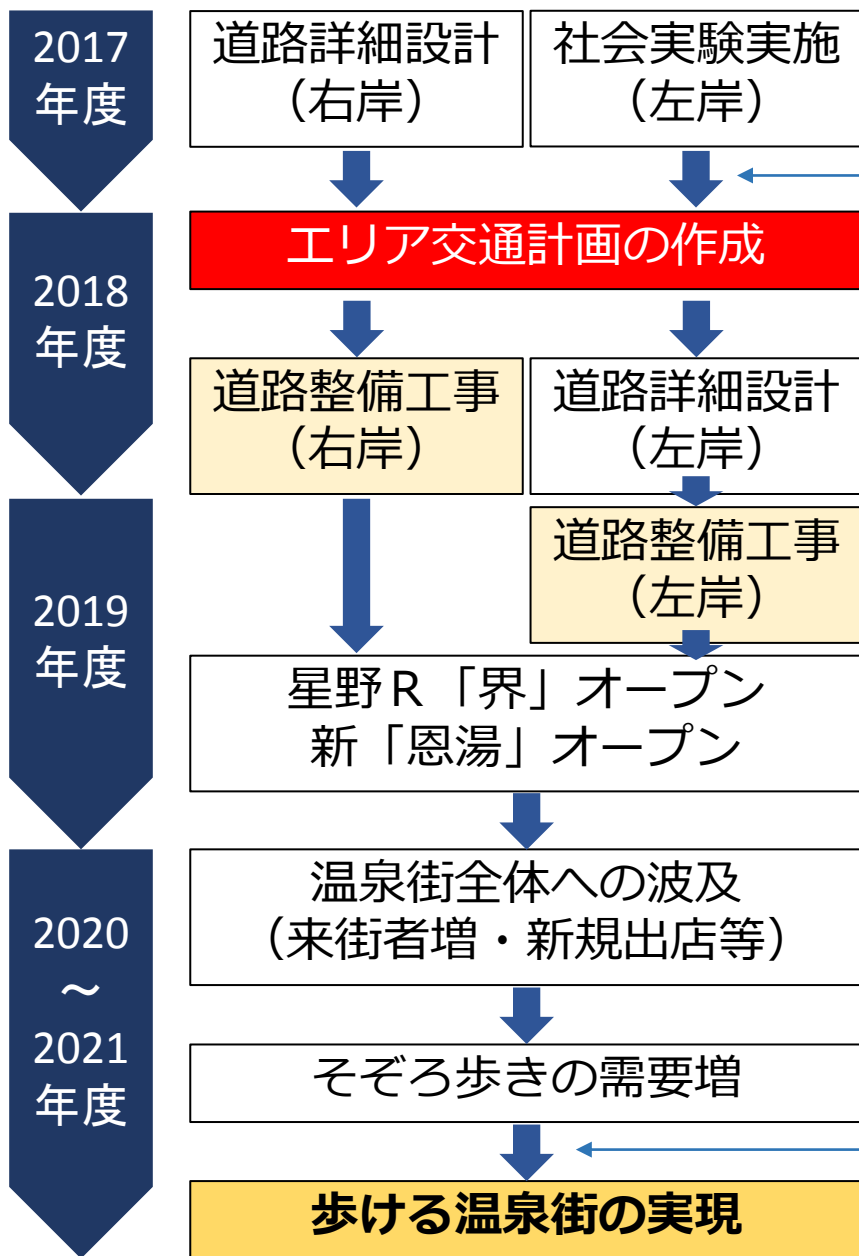
### B. 車の視点



道路空間を体験した人・見た人 N=63



# 「歩ける温泉街」の形成に向けた基本的考え方



## ＜意思決定①＞

- アンケート結果では、歩行者・車のドライバー双方の視点で「一方通行」のほうが安全性や通行のしやすさで回答割合がやや高い
- しかし、「一方通行化」については地元の明確な反対がある中、判断を急がず、対面通行を基本に交通のあり方を検討（11/28推進会議）

## ＜基本的考え方＞

- **左岸道路は、クルマの対面通行を維持しつつ、利活用やそぞろ歩きができる「人中心」の道路交通環境を実現する**  
※歩車共存／通過交通抑制／速度抑制
- **右岸道路は、許可車・軽車両・緊急車両を除き「歩行者専用」とし、安心して歩ける空間を創出する**  
※住宅や旅館へのアクセスに配慮

## ＜意思決定②＞

- ハード整備や道路空間の利活用、新規旅館のオープン、既存旅館のリニューアル、新規出店などにより回遊する人々が増えてから再検討（一方通行化の必要性、交通安全対策など）



# 「歩ける温泉街」の将来イメージ

店先空間での商売により賑わいを生み出す  
(おもてなし・道路空間活用)

屋台・机・椅子の設置など道路空間を活用し、  
外部で食事や休憩ができる場所を創出  
(おもてなし・道路空間活用)



※歩道と車道を区分しない  
「シェアド・スペース」



# 人中心の道路空間構成（案）

## <提案のポイント>

- 右岸道路(国道～原田屋前)は歩行者専用化(許可車等を除く)を基本とする。
- 左岸道路は「対面通行」とし、道路上の活用を図るとともに、シェアド・スペースとすることでクルマの速度抑制・通過交通抑制を図る。

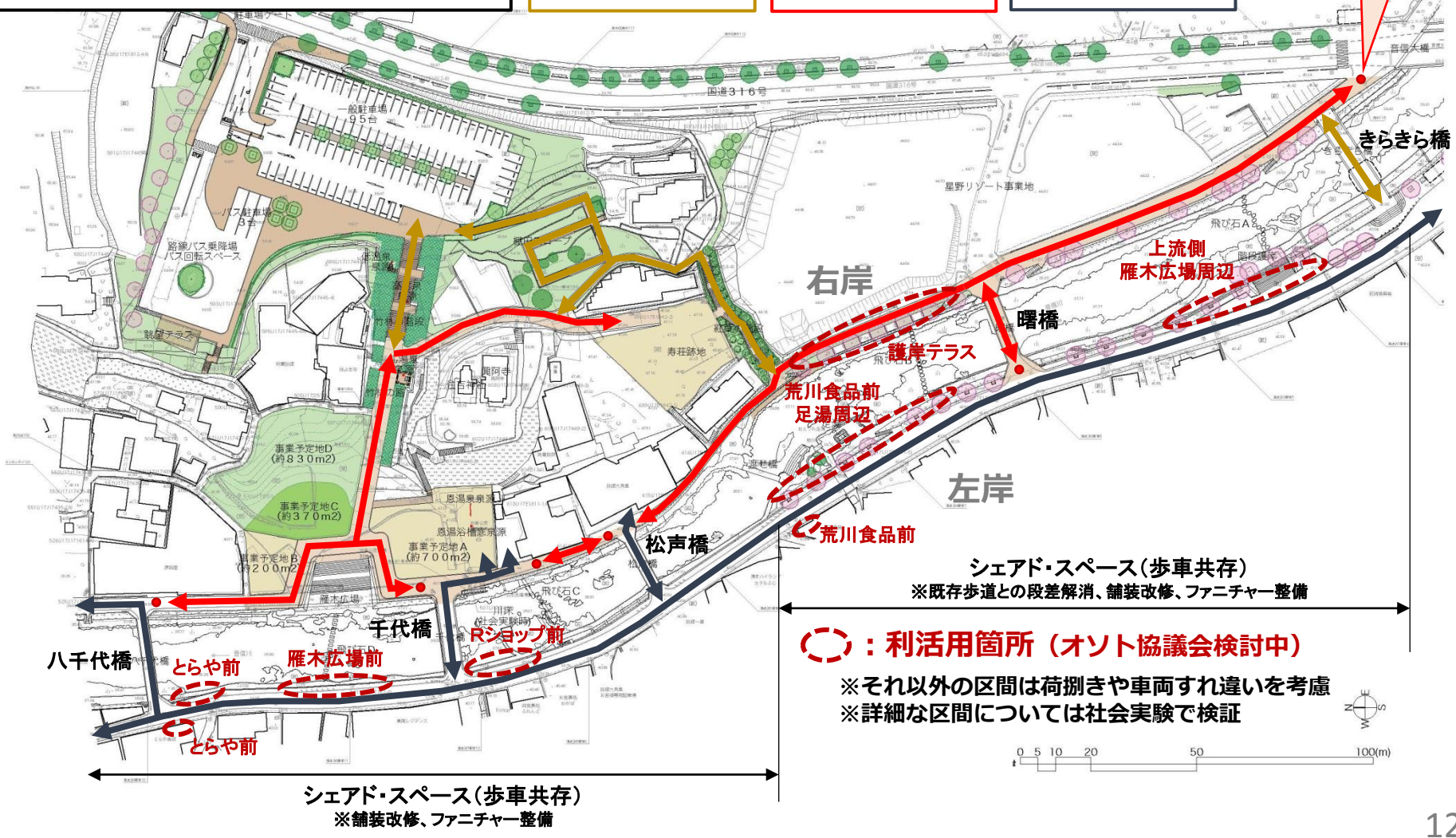
【ベース図】第3回長門湯本温泉観光まちづくり推進会議資料より引用

歩行者専用  
(車両通行不可)

歩行者専用  
(許可車・軽車両・  
緊急車両除く)

歩車共存  
(歩行者優先)  
(車両対面通行)

ポラード  
(車止め)

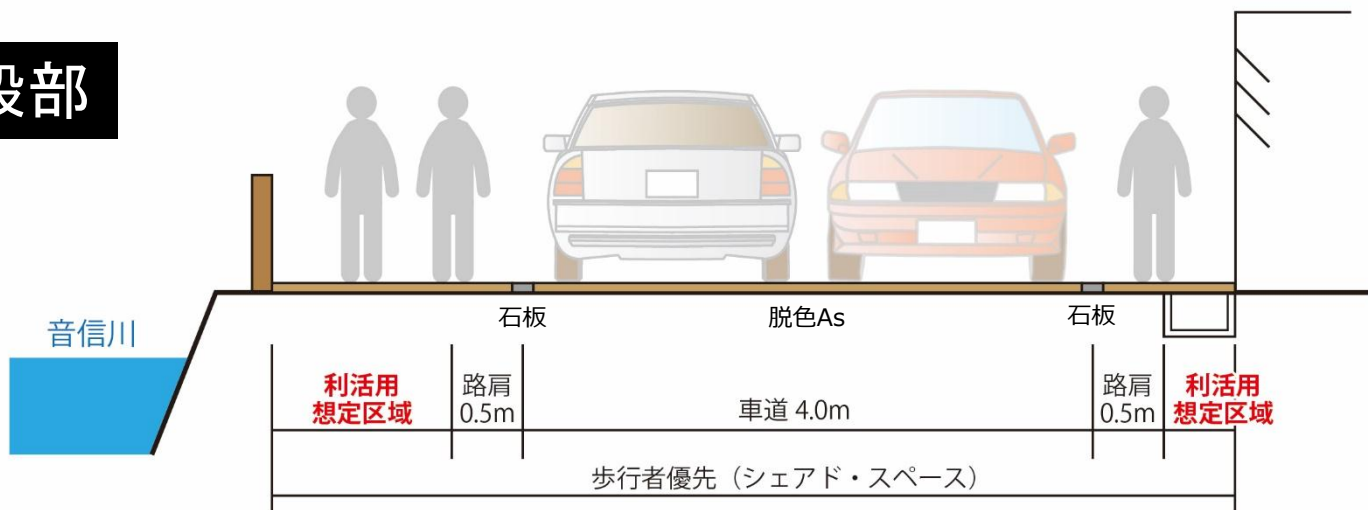




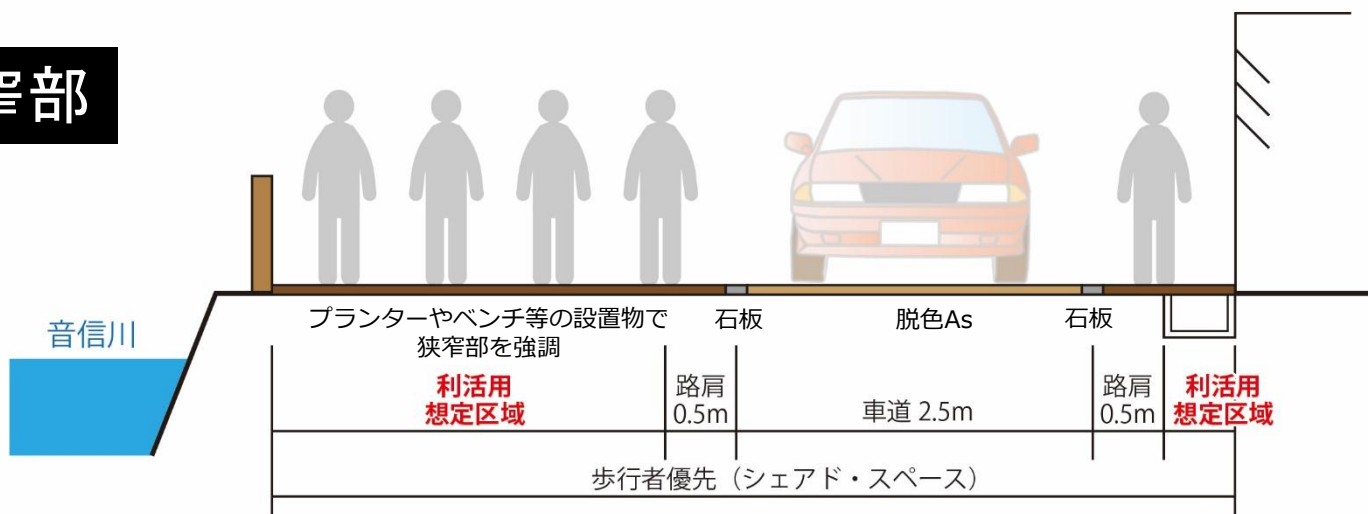
# 左岸道路断面構成（案）

- ◆ 一般部は、クルマのすれ違いを考慮し、車道幅員「4.0m」とする
- ◆ 狭窄部は、クルマの速度抑制等を図るため、車道幅員「2.5m」とする  
（両側路肩を含め3.5mとし、はしご車等の緊急車両の通行に配慮）

## 一般部

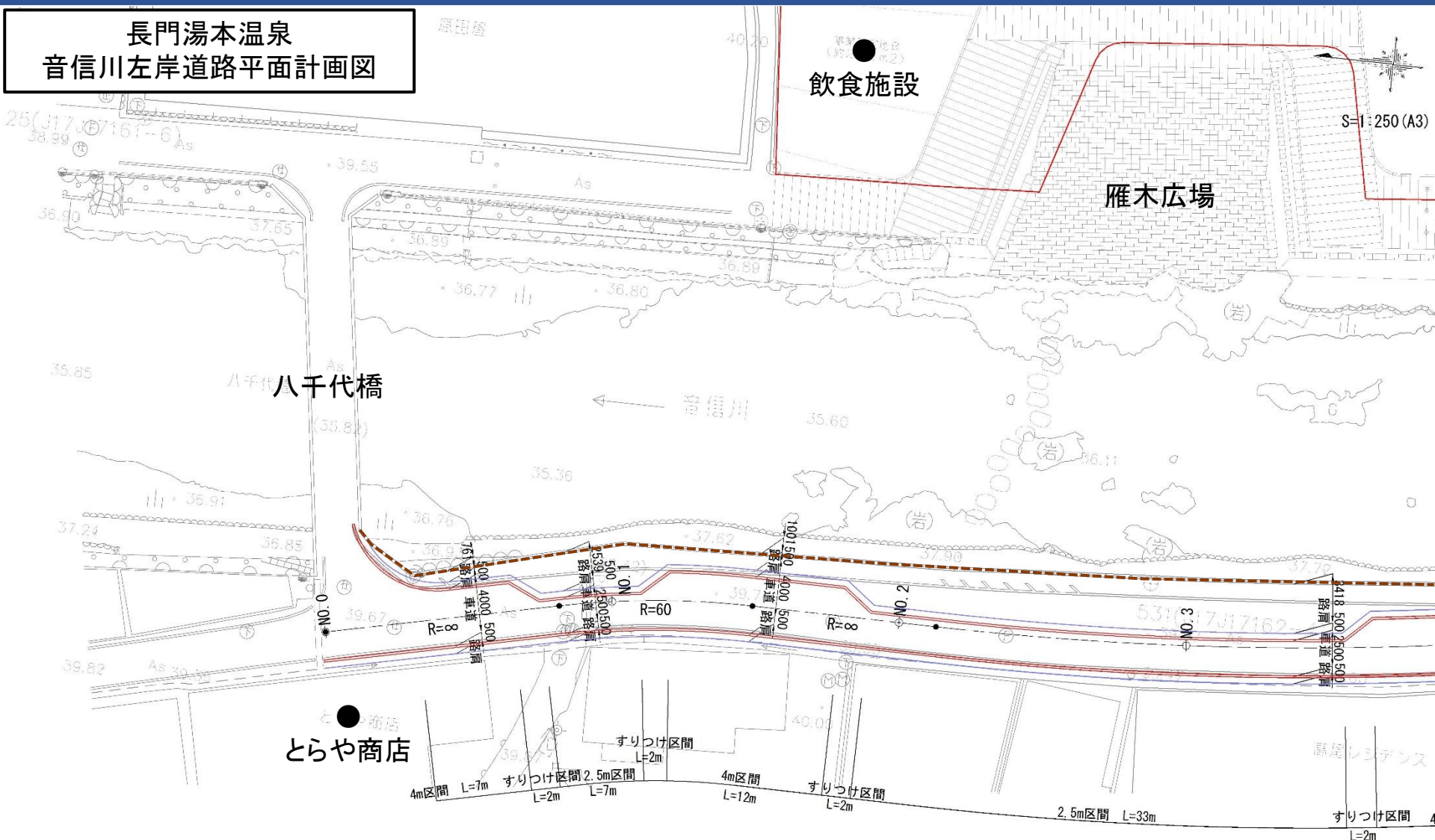


## 狭窄部



# 左岸道路平面計画（案）

長門湯本温泉  
音信川左岸道路平面計画図



※社会実験の結果を踏まえ、警察協議や地元WS等により決定

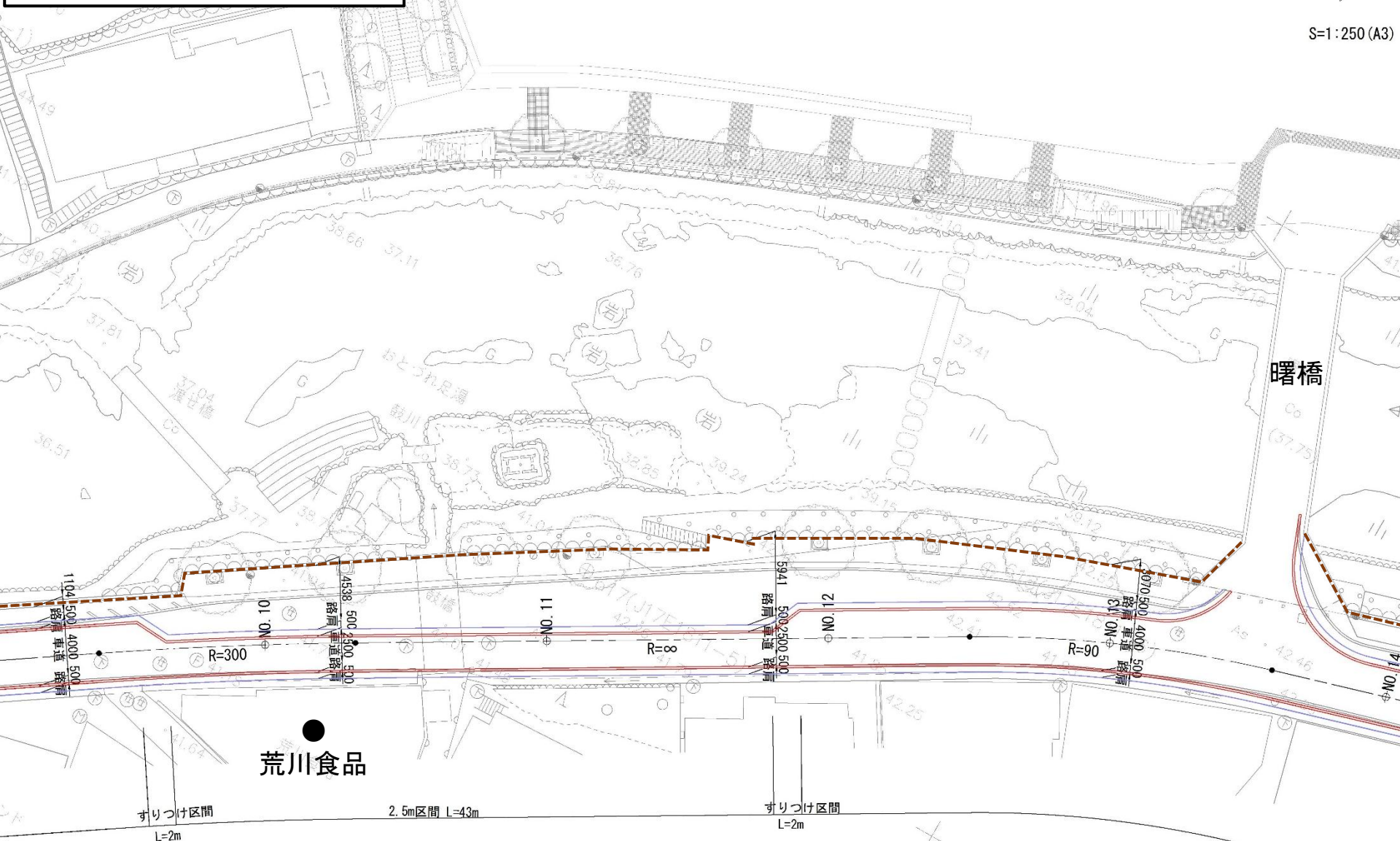


# 左岸道路平面計画（案）

長門湯本温泉  
音信川左岸道路平面計画図

※社会実験の結果を踏まえ、警察協議や地元WS等により決定

↑  
S=1:250 (A3)



5/20(日)  
13-15時

## 第4回 景観&交通 住民ワークショップ

- ①交通面の現状・課題・対応方針（タタキ台）の説明
- ②タタキ台に対する意見収集
- ③まとめ



沿道の方々への個別ヒアリング／警察との協議／社会実験内容の検討など

7/16(月祝)  
13-15時

## 第5回 景観&交通 住民ワークショップ

- ①前回の振り返り、今回の趣旨説明
- ②まち歩き（計画中の道路幅員を現地確認）
- ③意見交換
- ④まとめ



**社会実験の準備・実施・効果検証**／計画（最終案）の作成／関係者協議など  
（実験期間中、ビデオ撮影や現地観測、アンケート調査を実施予定）

11/18(日)  
13-15時

## 第6回 景観&交通 住民ワークショップ

- ①社会実験結果の説明
- ②実験結果を踏まえた計画（最終案）の説明
- ③意見交換
- ④まとめ